

県 勢 編

沿 革

大化の改新(645 年)の頃、北陸地方一帯は越(こゝろ) (高志、古志) の国とよばれていた。

7 世紀末、越前、越中、越後に三分された。702(大宝 2) 年に越中国に属していた頸城、魚沼など 4 郡が越後に移され、741(天平 13) 年に能登地方が越中に編入された。越中守で文献上、初めて登場するのは 732(天平 4) 年に任ぜられた田口年足で、ついで登場するのが 746(天平 18) 年に任ぜられた万葉の歌人大伴家持である。757(天平宝字元) 年に越中国から能登地方が分かれて、越中は現在の富山県の県域と同じになった。

武士の治乱興亡の時代に入り、源平時代には木曾義仲の倶利伽羅峠の戦い、戦国時代の一向一揆、上杉・織田両勢力の進入など幾多の争いが続いた。

1583(天正 11) 年に織田氏の武将佐々成政により越中がほぼ統一された。その後、越中 4 郡(砺波・射水・婦負・新川)は加賀前田氏の領国となったが、1639(寛永 16) 年婦負郡と新川郡の一部が富山藩に分封され、前田利次が初代藩主となった。

江戸時代、水害との戦いに苦しみながらも用水を開き、土地の新田開発を進め、農業・売薬業をはじめ諸産業を興した。また、伏木港や岩瀬港では北前船の中継地として、昆布、ニンシ、酒、米などの交易が盛んに行われた。

1871(明治 4) 年の廃藩置県により、越中のうち旧富山藩領は富山県に、旧加賀藩領は金沢県の一部となった。同年 11 月に富山県は新川郡、砺波郡を加えて新川県に改められた。また、射水郡は七尾県に編入されたが、1872(明治 5) 年には新川県に移され、越中全域が新川県となった。しかし、1876(明治 9) 年には越中全域が石川県に編入された。

このため、行政の主力を金沢中心の道路整備に置く加賀・能登側と、治水を急務とする越中側の意見が対立し、米沢紋三郎らによって分県運動が起こされ、1883(明治 16) 年 5 月 9 日に現在の富山県が生まれた。

1889(明治 22) 年市制・町村制が実施され、富山町と高岡町が市となり、2 市 31 町 238 村が定まった。その後、市町村の合併が進み、2006(平成 18) 年 3 月末には、10 市 4 町 1 村となった。